

「知」：学びに向かう力をもつ子どもの育成《3学期の取組の検証と次年度に向けて》

取組指標	取組指標の進捗状況
①見通しと課題のつながりを明確にし、子どもたちの考えの交流を位置づけた算数の授業を工夫する	◇アンケート結果より 教職員の「できた」という意識 →81% (78%) 児童の意識 考えをもてた →74% (77%) 考えを話せた →71% (73%) 比べたりつなげたりした →70% (70%) * 授業研究、授業観察強化月間の取組の成果が少しずつ出てきている。
②学習のルール4か条で毎月必ずめあてをもたせ、月末に振り返りの場を設定し、その結果に即した声かけ指導を工夫する 担任以外も、各自の持ち分の指導に生かす（特に姿勢について）	◇アンケート結果より 教職員の「できた」の意識 →54% (73%) 児童の意識 忘れずにそろえる →76% (73%) 姿勢をよくした →60% (62%) * 毎月末に反省を実施した * 教職員は声かけに努めた (姿勢がよくない → 児童自身も自覚している)
③チャレンジタイムで、子どもに応じた量の問題を用意し、取組の目安を示して取り組ませる 子どもの実態に即した支援を行い、達成感を味わわせ	◇アンケート結果より 「できた」の意識は、教職員→94% (97%) 児童 →78% (84%) * 「すこしできていない」「できていない」と回答した児童は11名で、2学期より5名増 * 児童に応じた問題量を用意し、全教職員で支援を行った
《家庭》 ④家庭学習習慣確立に向けて懇談と通信を通して担任と共通理解した子どもへの具体的な学習支援の方策を実行する	◇アンケート結果より 保護者の「できた」の意識 →82% (74%) 《(教職員 →78% (84%))》 * 保護者への定期的な働きかけを継続
《地域》 ⑤各学年が学期に1回以上企画する人材活用の学習活動に、積極的に参加する (子どもたちに向けた感想等を書く)	各学年、次のような人材活用の学習活動を実施 ・昔の遊び体験 (1, 2年) →9名 ・デザイン画 (3年) →1名 ・昔の道具体験 (3年) →2名 ・読み聞かせ (1~6年) →8名 感想を書いしてくれた方 12/20 60%

達成指標	達成指標への接近状況
由布市学力調査において、低位層を30%以下にする (1, 2学期においては、国・算の単元テストにおいて、目標値に対する達成率70%以上を目指す)	由布市総合学力調査の結果 (低位層の割合) ◇国語54% (3年56%, 4年80%, 5年70%, 6年25%) ◇算数54% (3年61%, 4年80%, 5年27%, 6年50%) 1~6年の単元テスト観点ごとの達成のべ人数 (%) ※詳細 (各学年データ) は別紙参照 ◇国語 (話す聞く) 88% (書く) 51% (読む) 94% (漢字) 87% (言語) 88% ◇算数 (考え方) 80% (技能) 84% (知識・理解) 90%
単元末に行う児童アンケートで、全員が「授	◇単元末アンケート結果より よくわかった 48% (34名) だいたいわかった 46% (33名) 少しわからなかった 3% (2名) わからなかった 3% (2名) 2学期は よくわかった 44% (29名) だいたいわかった 44% (29名) 少しわからなかった 9% (6名) わからなかった 3% (2名)

次年度に向けて

① 校内研究「すっきりとつながった見通しと課題」「児童の考えの交流」の成果と課題をふまえて研究の方向性を考えていく 読み取る力の向上、論理的理解力の向上、学びに向かう姿勢などを重点に考えていく必要がある
② 毎月の目標を確実にもたせ、月末に振り返りを行うサイクルを、全教職員で声かけしながら支援していく (姿勢についても「背筋を伸ばして」「椅子をひいて」の具体的な声かけをしていく) 低学年から書く姿勢を重視して指導を重ねていく 体育のサーキットトレーニングで体幹を鍛える 家庭へのはたらきかけをする (家庭のしつけ面、保健面、体育的側面より)
③ チャレンジタイムの時間の確保を確実にする 児童の実態に応じた問題量を用意し、取組の目安を必ず示す工夫を継続し、引き続き児童に達成感を味わわせていく
④ 通信や懇談で児童の学習の様子、進捗状況を伝え、保護者に関心を高めてもらう 通信では、児童のノートの紹介、学習の進捗や様子などについて知らせる (学習についてのお知らせコーナーを設ける等) 連絡帳に書いてある宿題内容の確認とサインを年度当初からお願いしていく
⑤ 次年度も引き続き実施し、感想を書いてもらう